

プロフィール

GAKU



略歴



1960年3月、川口市生まれ。さいたま市浦和区在住。

1973年、中学2年のとき、草加市立栄中学校に途中転入。

1975年、県立越ヶ谷高校に進学。

1978年、文教大学人間科学部に入学。

1994年、日本共産党埼玉中央地区（旧浦和市、蕨市、戸田市地域）委員長になる。

2010年、2013年、2016年参議院選挙に立候補。

2011年3月の震災・原発事故後、原発反対のデモをツイッターなどで呼びかけ、県内30カ所以上で開催。「原発なくそう」の運動の先頭に立つ。

党県民運動委員長として、県内の介護施設約1000カ所を対象にアンケートを実施。

消費税5%への引き下げ、憲法改悪を許さない、平和・暮らしをこわす安倍政治の暴走をストップさせるために街頭での訴えや団体との懇談など県内各地で奮闘。

2019年、参議院選挙で埼玉選挙区から初当選。

2019年、参議院環境委員会委員

2020年、参議院総務委員会委員

エッセイ・インタビューをチェック！

松竹伸幸様

日本共産党京都南地区委員会常任委員会は、2023年2月5日、あなたの除名処分を決定し、日本共産党京都府委員会常任委員会が2月6日に承認し、確定したことを通知します。

なお、あなたの所属する党組織は南地区委員会・新日本プロセス支部ですが、あなたがすでに全国メディアや記者会見などで公然と党攻撃を行っているという「特別な事情」にかんがみ、同支部委員会の同意のもと、党規約第50条にもとづき、南地区委員会常任委員会として決定したものです。除名処分の理由は以下のとおりです。

(1) あなたは、1月に出版した本のなかなどで、「党首公選制」を実施すべきと主張するとともに、党規約にもとづく党首選出方法や党運営について、「党内に存在する異論を可視化ようになっていない」、「国民の目から見ると、共産党は異論のない（あるいはそれを許さない）政党だとみなされる」などとのべています。「党首公選制」という主張は、「党内に派閥・分派はつくらない」という民主集中制の組織原則と相容れないものですが、あなたが、この主張と一体に、わが党規約が「異論を許さない」ものであるかのように、事実をまったく歪めて攻撃していることは重大です。

(2) あなたは、1月に出版した本のなかなどで、「核抑止抜き専守防衛」なるものを唱え、「安保条約堅持」と自衛隊合憲を党の「基本政策」にせよと迫るとともに、日米安保条約の廃棄、自衛隊の段階的解消の方針など、党綱領と、綱領にもとづく党の安保・自衛隊政策に対して「野党共闘の障害になっている」「あまりにご都合主義」などと不当な攻撃を行っています。

(3) あなたは、『週刊文春』1月26日号において、わが党に対して「およそ近代政党とは言い難い『個人独裁』的党運営」などとする罵詈雑言の攻撃を書き連ねた鈴木元氏の本（1月発行）を、「『同じ時期に出た方が話題になりますよ』と言って、鈴木氏には無理をして早めに書き上げていただいた」と出版を急ぐことを働きかけたことを認めています。あなたは、わが党の調査に対して、この本の「中身は知っていた」と認めました。この行為は、党攻撃のための分派活動といわなければなりません。

(4) わが党の調査のなかで、あなたは、あなたの主張を、党内で、中央委員会などに対して一度として主張したことはないことを指摘されて、「それは事実です」と認めました。わが党規約は、中央委員会にいたるどの機関に対しても、自由に意見をのべる権利を保障しています。異論があればそれを保留する権利も保障しています。しかし、あなたは、そうした規約に保障された権利を行使することなく、突然の党規約および党綱領に対する攻撃を開始したのです。

あなたの一連の発言および行動は、党規約の「党内に派閥・分派はつくらない」（第3条4項）、「党の統一と団結に努力し、党に敵対する行為はおこなわない」（第5条2項）、「党の決定に反する意見を、勝手に発表することはしない」（第5条5項）という規定を踏みにじる重大な規律違反です。

以上の理由から、あなたを除名処分とするものです。

2023年2月6日 日本共産党京都南地区委員会常任委員会

金子あきよ必勝 強く大きな共産党をつかって、岸田大軍拡をとめよう

南区 党と後援会の決起集会

2月26日 日

午前10時から11時45分

武蔵浦和コミュニティセンター

9階多目的ホール



統一地方選挙での金子あきよ必勝、暮らしを壊す大軍拡を許さない運動、そして日本共産党を強く大きくする取り組みに日夜奮闘されている党員の皆様、ご協力いただいている後援会員の皆様に心より敬意を表します。軍拡NO! 平和を守る草の根の運動を広げ、いよいよ本番を迎える統一地方選挙での勝利をめざして「南区決起集会」を開催します。党と後援会の総力で意気高く成功させましょう。運動の前進を願う多くの党員・後援会員・支持者の皆様、お誘いあわせてご参加くださいますようお願いいたします。



*決意表明

南区市議予定候補

金子あきよ

岸田政権NO! の審判をさいたま市から
市議選必勝めざす決意

お話：伊藤岳 参議院議員

緊迫の国会情勢と日本共産党の役割

*支部・後援会より

強く大きな党づくりに関わる経験交流

部内資料

主催：日本共産党南区委員会/南区日本共産党後援会
さいたま市南区南浦和2-31-13金子あきよ事務所
電話048-881-2487 FAX048-881-2497

2月26日 南区党と後援会決起集会
伊藤岳参議院議員のお話

みなさんこんにちは。
金子昭代さんの選挙、市議選がいよいよ1ヵ月後に迫ってきました。皆さんのお力で再び議会に押し上げていただき、さいたま市全区で市議会議員を誕生させる、そしてこの政令市と戦後安全保障政策の大転換 敵基地能力の保有いたま市から県議会議員も再び送り出す。そのためにご尽力いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



追い詰められた岸田内閣

岸田内閣の大きな特徴は次から次に大臣が辞めていくことです。もう4人の大臣が辞めさせられました。

ひとりめは名前は山際と言うけれども国会では瀬戸際、往生際などと言われていた人。ふたりめは死刑にハンコを押すのが仕事だととんでもない話をした葉梨大臣。3人めは次から次へと政治金の疑惑が出てきて呆れ寺田と言われていた寺田大臣。そして4人目が次から次に影武者が出てくる秋葉大臣。4人の大臣が更迭されて大臣辞任に追い込まれました。1つの内閣で3人以上大臣が辞めさせられて、その後半年間もった内閣はまだ1つもないんです。国民の皆さんの世論で、皆さんの運動でここまで岸田政権を追い詰めましたけれども、今年はいよいよ本丸、岸田総理にお辞めいただく時ではないでしょうか。この4月、統一地方選挙で勝利をして岸田政権ノーの声、この南区からもごいっしょにあげていこうではありませんか。どうぞよろしくお願い致します。

戦後安全保障政策の大転換 敵基地能力の保有

岸田内閣が、大軍拡増税を言い始めました。この大軍拡増税の1番の中身は、軍事費を倍にして敵基地攻撃能力を持つ国にしようと言うことです。軍事費を倍にして敵基地攻撃能力を持ってしまったら戦後日本のあり方を根底から覆すことになりま

1) 他国に脅威を与える国に

まず1つ目は、これまで曲がりなりにも専守防衛の国だと言ってきましたけれども、専守防衛の枠をはるかに超えて世界のあらゆる国々に脅威を与える国にガラリと変わってしまうということです。この敵基地攻撃能力についてどう政府は説明しているか。政府の文書を見ますと、相手の敵国の基地周辺の施設を無力化する攻撃だ。無力化、力をなくす攻撃だと書いています。別の文書を見ますと「殲滅する打撃」だ。この殲滅と言うのは重要ですね。全滅よりも格が上なのが殲滅です。わかりやす

く言うと木っ端みじんにすると言うことです。何も残らないようにする。こういう敵基地攻撃能力を私たちの国はもとうと言うのが岸田内閣。そのために昨年安全保障関連3文書、安保3文書と言っていますが、これを全部変えました。そこに出てくるのがトマホークを始めとしたミサイルの爆買いです。どのミサイルも北朝鮮に到達することができる、中国に到達することができる、ロシアまで到達することができる。そういう飛行距離をもつミサイルをどんどんこれから買っていくということが、安保3文書の中に書かれています。「防衛省の将来像」と言う文書を見ますとこうしたミサイルに加えて、極超音速ミサイル誘導弾、配備すると書いてあるんですね。マッハ5ってどのくらいかわかりますか。東京大阪間を3分半で移動できる速さです。ですから迎撃不可能だと言われるんです。打ち落とすことはできない。こういう軍備を備える国になってしまったら、もう世界のあらゆる国々にわが国が脅威を与える国になります。これまで憲法9条がある国と世界で見られていた、もうこれからはそういう事はありません。相手の国に脅威を与えると言う事は他の軍事大国からつねにマークをされる国と言うことです。こんな国にするわけにはいかないですね。

2) 日本を戦場にしてしまう危険

軍事費を倍にして敵基地攻撃能力を持つ、2つ目になる日本の姿は、敵基地攻撃能力を使って、日本を守るどころか日本を戦場にする事になってしまうということです。

敵基地攻撃能力そんなにすぐに使えないだろうと思っている方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし現在の法律の段階でただちに使うことができる能力なんです。安保3文書に明確に書いています。2015年に安保法制が変えられました。いわゆる戦争法ができました。この戦争法によって、集団的自衛権の名の下に、日本はアメリカの戦争に加わることができる国になりました。アメリカの戦争に加われば、この戦争において敵基地攻撃能力を使う事は可能だと言うふうに安保3文書には書き込まれています。さら統合防空ミサイル防衛能力を強化すると書いてある。これどういうことかといいますと統合防空ミサイル防衛能力、IAMDと言うのは、アメリカのミサイル戦略なんです。日本の戦略じゃないんです。アメリカのミサイル戦略の中にわが国が入るということが、米軍の資料でこのIMADについてどう書かれているか、と言うと、このミサイル戦略に入る国は国同士の関係は隣に並び立つ関係ではありません、融合する、1つに解け合う関係。いわばワンチームですって書いてあるんです。そうすると、私たち日本の国が敵基地攻撃能力を使ってミサイルを撃っていない段階でも、また、私たちの国がどこかの国から全く攻められていない段階であっても、アメリカやドイツなどがミサイルを撃ってしまったら、ワンチームだから、私たちも同じとみられて日本の国が報復攻撃を受ける対象になってしまうんです。先ほど守谷さんが今週の日曜版、全国の自衛隊基地の地下化の話がされていました。先週私は塩川議員と一緒に入間基地埼玉の航空自衛隊その地中化の実態を見て参りました。入間基地は隊員が4500人で、日本最大の航空自衛隊の基地なんですね。この基地を地中化するために来年度115億円の予算がつけられています。なぜ地中化するかと言うと抗堪性(こう

2月26日 南区党と後援会決起集会
伊藤岳参議院議員のお話

たんせい)の強化。抗堪性と言うのは粘り強く戦いぬく能力、つまりどういう状況になっても持ちこたえる基地を作るために基地を地下に、地中化するということなんです。敵基地攻撃能力を使えば報復攻撃の対象になると言うのは、勝手に共産党が言っているわけではないんですよ。政府がもうそれを自覚して、報復攻撃の対象になるから、そこで粘り強く戦うために地下に埋めちゃおうとやっているわけです。

入間基地は基地の敷地の中に自衛隊入間病院というのが作られています。そこを見て参りました。午前の11時ごろ行ったんですけど、ほとんど患者さんがいない。こんな病院見たことがありません。普通の病院は満杯ですよ。あまり患者を受け入れないようにしているんですよ。いざと言う時に負傷した自衛隊員を大量に受け入れられるようにしているんです。どうやってその入間基地に負傷した自衛隊員が運び込まれるかというとC-2と言う大型輸送機をまた増やすんです。C-2という輸送機はその中に最大4つの手術室を作ることができるんです。海外で負傷した兵士を輸送機内で手術しながら入間病院に運びこむ。こういうことの準備もし始めているんです。共産党が危ない危ないと言っているんじゃないんですよ。政府がしっかり準備をしているんです。敵基地攻撃能力は今からでも使える。中国の脅威、北朝鮮の脅威と言う話ではないんです。日本を守るどころの話ではなくて、敵基地攻撃能力を持つことによってわざわざ日本の国に戦火を呼び込んでしまう、そういう国に変えてしまう。断じて許すわけにいかない話なんです。



自衛隊基地の地中化についてスクープした
赤旗日曜版2月26日号

3) 軍拡財源で増税地獄・暮らし総破壊

岸田政権が変えようとしている3つ目の日本の姿は、増税地獄暮らし総破壊の国になってしまうと言うことです。安保3文書では相手の国に脅威を与え続ける軍備を備えんとしています。毎年軍備を強化すると書いてあります。どのくらいのお金がかかるんでしょうか。これ政府はまだ言わないんです、はっきりと。5年間で43兆円とか向こう6年以降は1兆円ずつ増税って言っているけれど、どうやってお金を確保するのかっていうことをまったく言わないんです。一つ明確にしているのは、復興特別所得税の財源の半分を防衛費につけかえます、と。復興特別所得税と言うのは皆さん、知ってますか。みなさんが取られてるんですよ。(東日本大震災)3・11の後、全国で被災地を支えようと言うことでとられているんです。復興のための財源だって国民は協力しているんです。その財源をですよ、復興とは真逆の、日本を焼け野原にするような戦争財源にする、これ自身許されませんが、それ以外どうやって財源を確保するのかと言うことを明確に言っていないんです。消費税を一体どこまで上げるの

2月26日 南区党と後援会決起集会
伊藤岳参議院議員のお話

か、年金はどこまで削られるのか、医療費窓口負担はどこまで上げるのか。ある政府の審議員は軍事費2倍化を進めるためには医療費窓口負担を7割にする、と言っています。7割ですよ、みなさん。待っているのはこうした大增税地獄と暮らし総破壊の道しかありません。こんな国にさせるわけにいかないじゃないですか。この大軍拡大増税の道、なんとしても食い止めなければならないと思うんですね。

平和外交で戦争しない国に

岸田総理というのは、歴代の総理とくらべるとなかなか涼しい顔をした人で、顔は涼しいんだけど、言ってる中身は大変恐ろしいこと連発しています。私も皆さんに国会に送っていただいて3年半がたちました。改めてありがとうございます。59歳の遅咲きって言われて国会に行きまして、遅咲きだったけど共産党の中では1番の新人なものですから、本会議場では1番前の席に座っています。そこで、喋ると飛沫が飛んできそうな距離で岸田さんの話を聞くんですけども、岸田さんの話を聞いて信念が伝わらないんです。ポリシーが伝わってこない。私が国会に行った時の総理大臣は安倍晋三さんでした。あの人には信念がありました。悪い信念ですけどね。この国を変えてやる、という。「美しい国」といって、戦前の日本を取り戻すんだってほとぼる信念が伝わってきました。岸田さんにはそれがありません。で、右の耳では例えば麻生さんの話を聞いて、左の耳では茂木さんの話を聞いて。確かに聞く力はあるんですよ。国民の声は聞かないけれど派閥の領袖の声を聞く力はある。その聞いたことを全部やろうとするから、まあひどい政治になっちゃうところが岸田政治の実態だと思うんですね。

岸田総理は脅威に備えて軍備が必要だと。ロシアを見なさい、ウクライナを見なさい、今脅威に備えることが必要だ。涼しい顔で淡々と言う。みなさん、冷静に国民に問うていこうじゃないですか、この選挙で。私たちの国には憲法9条があるんですよ。憲法9条のある国の総理大臣が「国民のみなさん、脅威に備えましょう、軍備を増やしましょう」これ、日本の総理大臣がいう発言じゃないと私は思います。私たちの国の総理大臣が言うべきは「私たちの国は脅威に備える等必要のない国です。なぜならば徹底した対話外交の努力を尽くす国です。この国で戦争を絶対に起こしません」こう言ってこそ、私は日本の総理だと思いますが、いかがですか。

日本共産党はそのために東南アジアの国々、ASEANの国々のルールに学んで平和なアジアを構築することを展望しています。ASEANの国々は域内のすべての国を排除せず、包み込んで友好協力条約を結びあって国と国の意見の対立は話し合いで解決する、ということを定めています。力による現状変更は認めない。ですからASEAN地域の国と国が、もし意見の対立が起こったら会議を開く。年間1000回の会議を開くんだそうです。1日平均3回。そのくらい徹底して対話の努力をしながら、揉め事には発展させない。戦争には発展させないという努力をしているのがASEAN地域です。今このASEANの努力を東アジアまで広げようとしています。そこには当然日本も中国も入っ

2月26日 南区党と後援会決起集会
伊藤岳参議院議員のお話

てきます。その国々と改めて友好協力条約を結びあって東アジアを力による現状変更は認めない、紛争を起こさない、そういう地域を作ろうではないかと言うことを模索していますが、私は日本政府もこの道にしっかりと入るべきだと思います。日本共産党とご一緒に金子あきよさんとご一緒に、平和なアジア、日本、ご一緒に作っていきましょうありませんか。よろしくお願いします。

大軍拡の信認を目指し 与党権力側の大攻勢

みなさん、この大軍拡増税を許さない戦いがこの4月の選挙です。しかし与党や権力の側もこの選挙を大軍拡増税が認められたそういう選挙だということにしようとして今大攻勢をかけています。4月は県議、市議、町村議、衆議院の補欠選挙、参議院の補欠選挙もあると言われていています。4月の9日もしくは23日が投票日ですね、一斉に選挙が行われます。この選挙で野党の議席や票を一票でも上回る結果を出せば、岸田大軍拡は信認されたということになる。そのために与党権力の側は必死の大攻勢を始めています。私は4つの与党権力側の大攻勢が始まっていると見ているんですね。

1) 統一協会となりふり構わぬ選挙協力

その1つは、統一教会とあえて癒着をして、統一教会の票を借りて自民党の弱い候補者に票を差配して、野党の議員や共産党の議員を一人でも落とそうとする大作戦にでていると思います。これはもう昨年来、けっこう明らかになりましたね。実際安倍元首相が、誰が統一教会の票を受け取ることができるかと言う事を差配していた。でもこれはまだ続いているんですよ。関係まだ絶っていないですから。岸田総理に統一教会との関係を断て、と言うと必ず彼から帰ってくる言葉は、この先関係を持たないことが大事です、この先関係を持たないことが大事です。壊れたテープレコーダーのように。この先と言うのだけれども今の関係には一切触れないわけです。自民党はガバナンスコードというのを改定して国会議員の皆さんには関係があるかどうか自己申告をなさいと。自己申告で素直に答える人ならいいけど。でもこの自己申告で既に181人の人が関係があると答えているんです。地方議員についてはどうか。統一教会などの団体とは極力お付き合いをしないように。極力、ですよ。つきあってもいいと言うことですよ。だから地方で今どんなことが起こっているか。昨年12月議会で、政治家と統一教会の関係を調査するなと言う意見書が上がっているんです。調査しろではなく調査するな。私の調べでは40自治体で上がっています。さすがにさいたま市議会では上がらなかったようですが。陳情があったんですね。全然関係切れてないんですよ。あのテレビで有名になった鈴木エイトさん、共産党の国会議員団でお招きしてお話を聞いていますが、彼によれば、前回の市議選であまり票の取れなかった自民党や保守系の候補者が、次の選挙でトップ当選する事例が全国あちこちで見られている。これは絶対統一教会の力があると彼は見ていると言うことです。事実そうだと思

2月26日 南区党と後援会決起集会
伊藤岳参議院議員のお話

うんですね。鈴木エイトさんの分析によりますと、自民党が統一教会とあえて関係を深く持ち始めたのは2015年のことだそうです。2015年と言えば戦争法が通過した。そして「野党は共闘」という掛け声が上りました。シールズと言う学生の団体が生まれました。それに危機感を持った権力側が統一教会を使おうとし始めたのが2015年だったんですよ。シールズと言う団体が活動する大学では、統一教会系の学生団体カープと言う団体が作られてシールズの撲滅運動やっったんですよ。



統一教会と自民党って一緒でしょ。改憲、一緒。男が主で女が従っていうジェンダー不平等も一緒。美しい国と言っていますけど。米軍基地OKも一緒。で、その統一教会に接近して癒着をして、どんどんそういう宣伝をする。その見返りに票をもらって自民党系の候補者に差配をする。これがずっと今も含めて続いているんです。今度の選挙でもそういうことがやられると思うんですよ。これが権力側のこの選挙で野党や共産党を伸ばさないための1つの作戦です。

2) 「受け皿づくり」と野党の分断

2つ目の作戦はね、自民党から票が離れても共産党まで票が来ないように、受け皿作りであります。具体的に言うと維新の会。もう維新の会には優しいですよ、国会でも自民党は。絶対に妨害しません。それは自民党の思惑と維新の会の思惑が一致しているんですよ。沢田良と言うこの地域に住んでいる国会議員、私によく声をかけてくるんですよ、国会で。あの人何でも言いますからね。正直に言っていましたよ、自民党のおかげで活躍させてもらっています、と。維新も第3極と言う道しか生き残る道はありません。第3極の勢力を大きくして自民党から仮に票が流れても共産党までいかない、こういう仕組みを作っているんですね。そして乗せられた維新の会が今年になってから次の作戦を始めました。野党共闘に楔を打つと言う作戦です。維新の会と立憲民主党が国会内で国会共闘合意を結びました。私どもの野党共闘の関係も崩れているわけではないんですけども、維新と立憲民主が協定を結び、いろんな協定があるんだけど、その中心は増税に反対するということです。大軍拡が抜けているんです。増税に反対。だけど、この協定を結ぶとどうなってくるかと言うと、この1月から始まった国会見てみるとよくわかります。大軍拡に一致しないから立憲の人たちは予算委員会でも軍拡の話は一切しないんです。増税はダメだ、増税はダメだ、と言ってる。だけどみなさん、増税止めるには軍拡をやめれば簡単なんですよ。だけど増税やめるしか言えない。そして増税やめて何が出てくるかと言うと、国会議員を半分にしるとか、社会保障のここを削れとかそういう話になってくるんですよ。これは危

2月26日 南区党と後援会決起集会
伊藤岳参議院議員のお話

ない協定なんです。そうやって立憲民主党を野党共闘の側からどンドン引き剥がしていこうという、そして国民の目から見れば野党がまとまっていないと言う色を醸し出しているっていうのが2つ目の作戦ですね。

3) 「異次元」の政策のごまかし

権力側の3つ目の作戦は政策のごまかしです。とにかく最近「異次元」とよく言うんですよ。異次元っていうとちょっといい感じ、しますよね。でも異次元の中身は何かと言えばまったく出てこないですね。異次元の少子化対策と言っています。今度私は3月に予算委員会に立つ予定ですが、保育士の問題をやろうと思っています。4歳児5歳児の保育士の配置基準は30対1。30人の子供に1人の保育士しか置かれていないわけです。これ74年間配置基準が変わっていないんですよ。異次元と言うんだったらそんな異次元はないですよ。でも言葉尻異次元で言って、なるべく自民党からの票離れを防ごうと言う作戦です。

4) 「反共は戦争の前夜」

最後4つ目の権力の作戦は、これが今大変な大攻勢をかけているんですけれども、ウクライナを見なさい、北朝鮮を見なさい、中国を見なさい、だから今軍備を備えましょう、それに同調しない共産党等は時代遅れだ。現実的じゃないと言う一大宣伝攻勢をかけています。この一大宣伝攻勢の嘘はさっきお話ししました。日本を守るどころか日本を焼け野原にするのが敵基地攻撃能力ですと言う話をしました。でも敵権力の側は凄まじい規模で今軍備に備えないのは現実的じゃない、あちこちで言いふらしています。先日国会の中で宗教者の皆さんの集まりがありまして、私も挨拶をしてきたんですけれども、このバックの垂れ幕のローガンですね。「反共は戦争の前夜だ」共産党員の方は誰もいないはずなんですけれども、お袈裟を着たお坊さんやクリスチャンの方、神道の神主さんが集まって、反共は戦争の前夜と言う集会をやっているんです。そこで挨拶をされた牧師さんがあの有名なマルチン・ニーメラーのスピーチを紹介していました。皆さんご存知でしょうか。「ナチスが共産主義者を攻撃した。私は共産主義者ではなかったので何も起こさなかった。ナチスが次に社会主義者を攻撃した。私は社会主義者ではなかったので事は起こさなかった。次にナチスは教会を攻撃した。私は教会の人間だったので何かことを起こそうとしたが、すでに時遅かった」こういう有名なマルチン・ニーメラーのスピーチがあります。そのスピーチを牧師さんが紹介されました。皆さん今の日本はまさにそういう状況ではないでしょうか。共産主義者、共産党に対する攻撃が盛んな時と言うのは間違いなく戦争の前夜なんですよ。

その戦争の前夜をさらに進めようと、権力の側がやってきたのは党の内部にまで手を突っ込んで、党の中から攪乱しようと、いわゆる松竹問題、皆さんも心配されている問題です。あの松竹伸幸と言う人物は、党首公選制が必要だと言っていますけれども、なぜ公選制に変えたいかと言うと、彼の主な政治的主張がみつありましてね、1つは安保を認めるべきだ、米軍基地も容認すべきだ、一定の軍拡が必要だというのが彼

2月26日 南区党と後援会決起集会
伊藤岳参議院議員のお話

の主張です。共産党の綱領や方針からしたらおおよそ認められないでしょう。安保を認めたら共産党じゃなくなっちゃうじゃないですか。そういうこと言うんだったら党の外に出て行ってやってくださいと言う話なんですけれども、あえて党の中に残って、いろいろな本でそういうことを自分の主張を書いたりした方ですね。もし共産党がそんな政策論に変わっちゃったら岸田大軍拡と戦えないですよ。取り込まれちゃいますよ。そこに目をつけたのが今の権力側なんです。共産党の中にいる松竹伸幸という人の主張に目をつけて本を出さないか、雑誌のインタビューに応じないか、いろいろ攻勢をかけていたことが明らかになりました。彼はそれに応じて本を出しました。彼のブログなんか見ますと、完全に権力の側に取り込まれちゃっているんです。利用されている。敵権力は党の内部でもこういうことを言っている人がいる、という事を外に漏らして、いかにも共産党が時代遅れだと言うようなことを醸し出そうとした。それにまんまと乗せられた。これが松竹問題の真相だと思うんですね。私は松竹さんとは青年運動の時代にスクラムを組んで歯を食いしばって一緒に戦ってきた仲間なんです。非常に残念です。

いろいろ話してきましたけれども権力の側、与党の側はこの選挙をいろんな作戦を講じて大軍拡が認められたと言う選挙の結果にしようとして大攻勢をかけてきているのは間違いがありません。ですから私たちの選挙戦の戦いは肩たたき程度の戦いでは勝ち抜けない。本格的な戦いが必要です。私たちが130%の党を作ろうと言っているのはそういうことから、強く大きな党を作って、本格的な宣伝戦組織戦を展開して、それで初めてこの大軍拡の政治目指そうとする権力の側に対抗する戦いができるんじゃないかと思うんですね。しかし年配の黨員の方も若い黨員の方もそういう闘いだったら好きですよ。戦争させない戦いだったら。本当に燃えに燃えて絶対にこの国を戦争する国にさせない、彼らの思惑を絶対に通させない。そういう意気込みで、単に金子さんを当選させると言うだけではなくて、その意味、その先は何があるのかその思いをしっかりと持って戦っていこうではありませんか。私もまたさいたま市にお邪魔することがあると思いますが、私はいない時もこうやってポスターの中で金子さんと一緒に頑張っています。みなさんと一緒に勝利を勝ち取りたいと思います。共にがんばりましょう、ありがとうございました。

2.26共産党と後援会の決起集会

伊藤岳参院議員が金子あきよ候補の応援に駆け付け

緊迫を告げる国会情勢と一斉地方選必勝を訴え

- ▼12月26日、南区の日本共産党と後援会は、伊藤岳参院議員を迎えて一斉地方選勝利の決起集会を行い70人超が参加しました。
- ▼集会の冒頭、選対本部から南区の選挙情勢を報告。定員9人に対して立候補が予想されるのはその2倍、いずれも有力候補で今までの選挙とは全く違う、一人ひとりが気を引き締めないと金子候補の当選はおぼつかない、と訴えました。
- ▼続いて、守谷千津子・さいたま地区委員長代理が連帯あいさつ。そして、地域から3人が活動報告。大谷口から、日曜版読者と長い間、対話を続けた結果、党に迎えることができた、それには守谷さんが過去、生活相談にかかわったことも明らかになりました。続いて、浦和南から、「金子候補の名がまだ地域に浸透していない」との危機感から、電話かけを強めてその中で感触が良かった家をペアで訪問し、約100軒で後援会ニュース読者になってもらい票読みの土台ができた、と報告。さらに、現役の女性が、自身の子育ての経験を踏まえて、自公政権やさいたま市の子育てに冷たい政治からの転換を求めました。
- ▼金子候補は、4年間の活動を報告。地域住民の要求実現に取り組んだ実績、清水市長のハコモノ行政から市民生活重視への政策転換を求めてきたことを詳しく報告しました。そして「来る市議選で皆さんのご支援をいただき、何としても再選を勝ち抜く」と決意表明しました。
- ▼伊藤岳参院議員は、時にはユーモアも交えながら緊迫した国会情勢を報告、全国での一斉地方選勝利の意義、金子候補の必勝に向けて、ともに頑張りたいと激励しました。

次頁に続く⇒



さいたま地域総行動(南区版)

2月22日夕方 南浦和駅西口

各団体が要求を持ち寄り、帰路に就く市民にアピールしました。金子市議の来賓あいさつ、労組の決意表明、南区の8つの市民団体が取り組みを報告しました。



いっせい地方選勝利! 南区連帯・活動交流ニュース No.195 23.2.27

日本共産党・金子あきよ事務所/電話048-881-2487 FAX048-881-2497

金子あきよブログ/<https://blog.goo.ne.jp/akiyo159593yokia>

本ニュースへのご意見・情報提供は内藤まで 電話090-2633-0232/E-mail ka-naito@nifty.com

2月度の機関紙の拡大、日曜版の回復に全力を

皆さまのご奮闘、ご苦勞様。直近の機関紙の増減集約状況は別表の通りです。地区委員会のデータでは日曜版は△5です。2月は残すところ今日を入れて2日間。数字にこだわって頑張らしましょう。

南区機関紙増減 2023.2								
	日刊紙			日曜版			区外拡大	
	拡大	減紙	計	拡大	減紙	計	H	N
大谷口	1		1	4		4		
太田窪			0			0		
南浦和			0	2	-5	-3		
文蔵			0		-4	-4		
辻・百幡			0		-3	-3		
浦和南	1		1			0		
別所			0	2		2		
西浦和			0	3	-3	0		
その他			0			0		
合計	2	0	2	11	-15	-4	0	0

▼南区市民の会、武蔵浦和駅東口で定例宣伝、オリジナルチラシ配布

南区市民の会は、2月25日の土曜日昼過ぎに、武蔵浦和駅東口で定例の駅頭宣伝を実施、行動参加者5人。スピーチとオリジナルチラシの配布、大軍拡大増税署名、トルコ・シリア募金ををおこないました。田畑代表の熱のこもったスピーチに耳を傾けながら通り過ぎる人も多く、チラシは通常より多い34枚配布出来ました。

《当日配布したチラシを本ニュースに添付しています》



【お知らせ】沼影市民プールの存続を求める会が市に要請

3月1日(水) 10:00～ 市議会会議室

※9:40に議会棟3FのEVホールにお集まりください。

参加はご自由です。ご参加いただける方は、予め内藤(090-2633-0232)までご連絡ください。